豊川市水道事業発注工事
－各種様式－

令和４年４月改定

豊川市上下水道部　水道整備課

目　　次

【　様式第１　】　　準備工チェックリスト

【　様式第２その１　】　水道資材使用承諾願い、一般材料使用承諾願い
【　様式第２その２　】　水道資材使用数量報告書、一般材料使用数量報告書

【　様式第３その１　】　週間工程表
【　様式第３その２　】　官公庁の休日・夜間等の作業届

【　様式第４その１　】　段階確認一覧表、施工状況把握一覧表

【　様式第５　】　　断水・通水切替計画書

【　様式第６その１　】　水質・水圧確認結果一覧表
【　様式第６その２　】　水質確認結果書
【　様式第６その３　】　施設検査記録簿

【　様式第７その１　】　ＮＳ形継手チェックシート（直管・ライナ使用・異形管φ75～250）
【　様式第７その２　】　ＮＳ形継手チェックシート（直管・ライナ使用・異形管φ300～450）
【　様式第７その３　】　ＮＳ形継ぎ輪用チェックシート（φ75～450）
【　様式第７その４　】　ＮＳ形切管チェックシート（φ75～450 タッピンねじタイプ）
【　様式第７その５　】　ＮＳ形継手チェックシート（直管φ500～1000）
【　様式第７その６　】　ＮＳ形継手チェックシート（ライナ使用・異形管φ500～1000）
【　様式第７その７　】　ＮＳ形継ぎ輪用チェックシート（φ500～1000）
【　様式第７その８　】　ＥＦソケット接合チェックシート

【　様式第８その１　】　出来形成果総括表
【　様式第８その２　】　測定結果一覧表（開削本配管工）
【　様式第８その３　】　測定結果一覧表（路面復旧工）
【　様式第８その４　】　弁類および消火栓筐位置確認管理表
【　様式第８その５　】　測定結果チェックシート（開削本配管工）

【　様式第９その１　】　ＧＸ形継手チェックシート（直管・Ｐ‐Ｌｉｎｋ）
【　様式第９その２　】　ＧＸ形継手チェックシート（異形管・Ｇ‐Ｌｉｎｋ）

【　様式第９その３　】　ＧＸ形継手継輪チェックシート

【　様式第 10 その１　】 豊川市認証品離脱防止異種管継手チェックシート
【　様式第 10 その２　】 豊川市認証品離脱防止異種管継手チェックシート
【　様式第 10 その３　】 豊川市認証品離脱防止異種管継手チェックシート
【　様式第 10 その４　】 豊川市認証品離脱防止異種管継手チェックシート
【　様式第 10 その５　】 豊川市認証品離脱防止異種管継手チェックシート
【　様式第 10 その６　】 豊川市認証品離脱防止異種管継手チェックシート

【 様式第1 】

準備工　チェックリスト

工事名　　請負者

路線名　　現場代理人

項目	内容	確認	備考
設計図書等の照査	設計図面の確認	□	
	配管網図による周辺管路の確認・把握	□	
	切替工事で断水となる世帯の把握	□	
	竣工図・給水原本による確認	□	
	既設連絡箇所・割丁字管等設置個所の配管詳細の確認	□	
	給水取出の不明箇所等の確認	□	
	設計内容と現場の照合・確認	□	
	確認の結果、必要に応じて変更配管図を作成し提出	□	
現場条件の把握	道路幅員・構造	□	
	交通・沿線の状況	□	
	地下埋設物の状況	□	
	仮設管の設置方法	□	
	側溝流水断面・民地乗入・仮設後の仮管温度等への影響	□	
	着手前に官民境界杭等を確認し、写真撮影（境界杭に影響の場合）	□	
対外関係	道路使用許可申請書の提出	□	
	沿線・周辺住民への工事説明	□	
	町内回覧案内（必要に応じて）	□	
水道施設の確認	工事現場内のバルブ位置	□	
	操作するバルブの状況　蓋の開閉	□	
	バルブ・制水弁は操作が可能であるか	□	
	消火栓の状況	□	
	消火栓は操作、吐かし作業が可能であるか	□	
	吐しの設置位置・方法の検討	□	
	断水エリアの確認	□	

【 様式第2その1 】

水道資材　使用承諾願

（あて先）豊川市水道事業

請負人 住所
氏名

下記のとおり材料を使用しますので、承諾願います。

工事名	○○町配水管布設替工事R○○－○○					
資材名	規格等	単位	数量	製造会社	購入先	備考

工事名	○○町配水管布設替工事R○○－○○					
資材名	規格等	単位	数量	製造会社	購入先	備考

一般材料　使用承諾願

（あて先）豊川市水道事業

請負人　住所
　　　　氏名

下記のとおり材料を使用しますので、承諾願います。

工事名	○○町配水管布設替工事R○○－○○					
資材名	規格等	単位	数量	製造会社	購入先	備考

【 様式第2その2 】

水道資材 使用数量報告書

（あて先）豊川市水道事業

請負人 住所
氏名

下記のとおり材料を使用しましたので、報告します。

工事名	○○町配水管布設替工事R○○－○○					
資材名	規格等	単位	使用数量	製造会社	購入先	備考

工事名	○○町配水管布設替工事R○○－○○					
資材名	規格等	単位	使用 数量	製造会社	購入先	備考

＊出荷証明、納品伝票等を添付。

確認監督職員＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

【 様式第2その2 】

一般材料 使用数量報告書

（あて先）豊川市水道事業

請負人 住所
氏名

下記のとおり材料を使用しましたので、報告します。

工事名	○○町配水管布設替工事R○○－○○					
資材名	規格等	単位	使用数量	製造会社	購入先	伝票番号等
	合計					

＊出荷証明、納品伝票等を添付。

確認監督職員

【 様式第3その1 】

週 間 工 程 表 （ No. 1 ）

＊ ＊ 町 配 水 管 布 設 替 工 事 Ｒ ＊ ＊ ー ＊

請負者名：

工期　　年　月　日 ～　　年　月　日

凡例：　上段：予定　下段：実績

現場代理人：

工種＼月日	実績							予定						
監督員立合														
備　考														

位置図

平面図

仮復旧完了箇所

工事予定箇所

通行止区間

断水範囲等

注1） 用紙の大きさは、日本工業規格A列3番とする。
注2） 工種欄は設計書の各工種を記入すること。また、本配管については各口径ごとの設計延長も記入すること。
注3） 実績欄には、配水管の布設延長を記入すること。
注4） 備考欄には、官公庁の休日・夜間の作業、断水時間及び通行止等を記入すること。

【 様式第3その1 】

週　間　工　程　表　（ No. 1 ）

＊＊町配水管布設替工事R＊＊－＊＊

請負者名：　＊＊株式会社

現場代理人：　＊＊　＊＊

工期 2020(令和)〇〇年＊月＊日 ～2020(令和) 〇〇年＊月＊

凡例：　上段：予定　下段：実績

工種＼月日	実績 7月15日(月)	7月16日(火)	7月17日(水)	7月18日(木)	7月19日(金)	7月20日(土)	7月21日(日)	予定 7月22日(月)	7月23日(火)	7月24日(水)	7月25日(木)	7月26日(金)	7月27日(土)	7月28日(日)
準備工			測量、資材搬入											
仮設路線1 仮設配管布設工				仮設PEφ50布設	仮設PEφ50布設	仮設PEφ50布設			仮設給水管布設	通水・切替	切替			
	休	休					休	休						
仮設路線1-支1 不断水仕切弁設置工					DIPφ200 N=1基									
	工	工			交通誘導員A1、B1		工	工						
路線1 管路土工					No.0～0+10m							No.0+10m～No.1	No.1～No.1+40m	No.1+40m～終点
												交通誘導員A1、B1	交通誘導員A1、B1	交通誘導員A1、B1
路線1 配水管布設工 DIPφ150 L=100m					DIPφ150布設							新旧連絡、DIPφ150布設	DIPφ150布設	DIPφ150布設
					L=10m									
路線1 給水管工 N=5箇所														N=3箇所
監督員立合			布設位置確認 13:30～14:00	材料検収 9:00～10:00						水圧試験・水質検査 14:00～			管吊り込み・継手接続状況 10:00～	
備考	休日作業 海の日											断水時間 13:30～15:00		休日作業

交通誘導警備員の使用実績を記入する

施工日ごとの実績を記入する

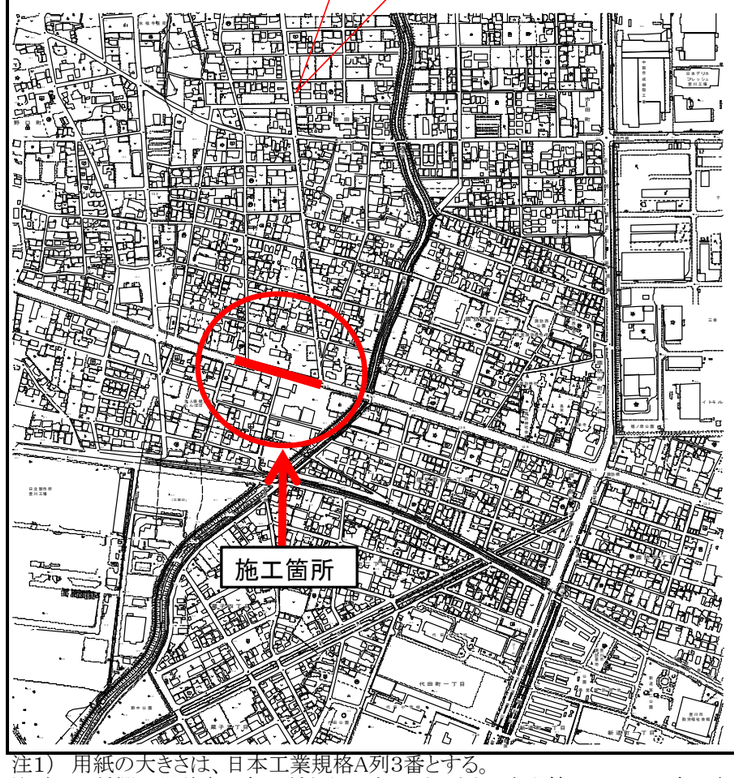
施工日ごとの予定を記入する

立会内容・予定時間を記入する

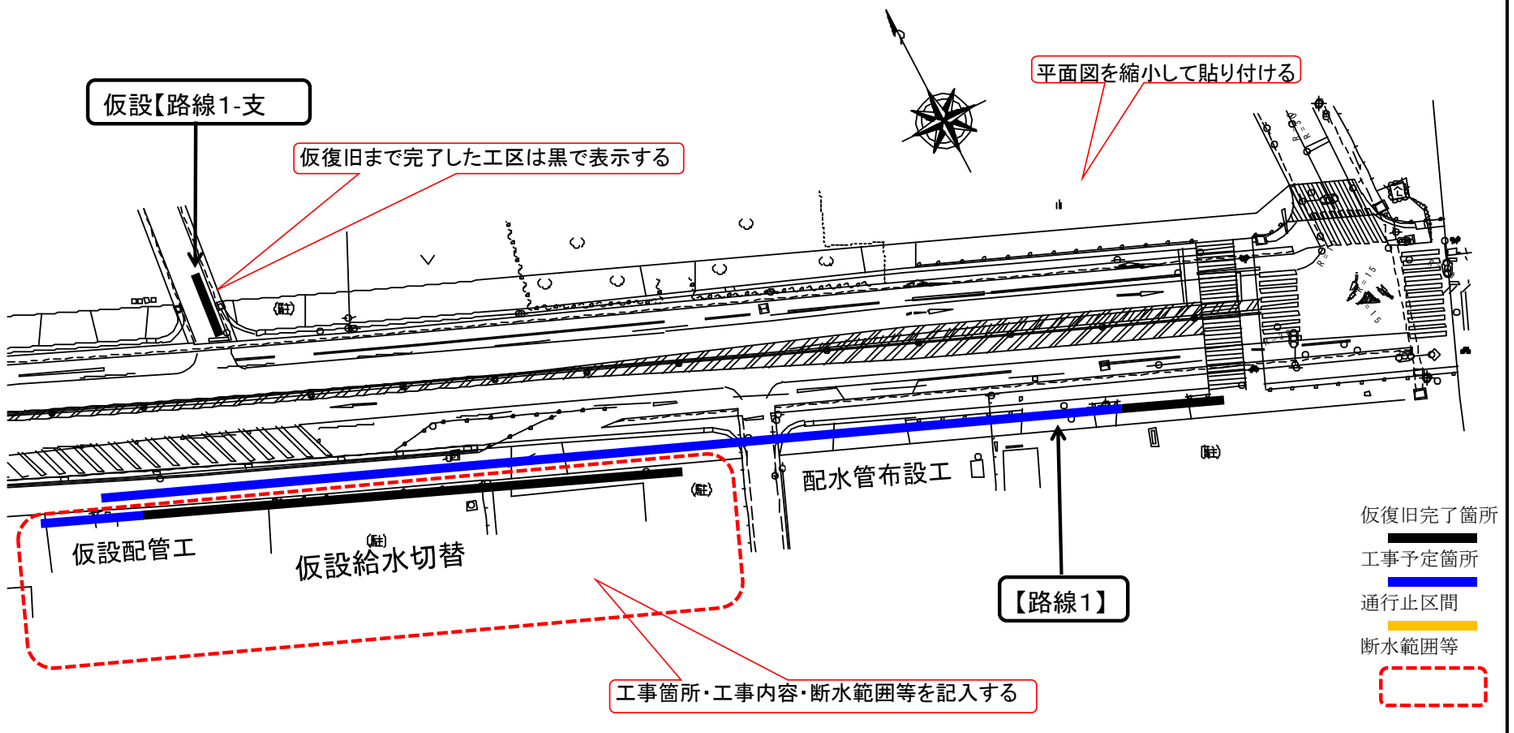
断水時間等を必要に応じて記入する

位置図

位置図や住宅地図等を縮小して貼り付ける



平面図



注1） 用紙の大きさは、日本工業規格A列3番とする。
注2） 工種欄は設計書の各工種を記入すること。また、本配管については各口径ごとの設計延長も記入すること。
注3） 実績欄には、配水管の布設延長を記入すること。
注4） 備考欄には、官公庁の休日・夜間の作業、断水時間及び通行止等を記入すること。

【　様式第３その２　】

官公庁の休日・夜間等の作業届

年　　月　　日

豊川市水道事業　殿

住　　所
名　　称
代 表 者 氏 名

次のとおり官公庁の休日・夜間等の作業を実施したいので，届出します。

工 事 名	
工事期間	年　　月　　日 ～　　年　　月　　日
工事場所	
作 業 日	年　　月　　日（　　曜日）　　：　　～　　：
作業人数	人程度
作業理由	
作業内容	
連絡先等	

※　施工位置図（別紙参照）

※　緊急時の連絡体制を現場に常備します。

【 様式第4その1 】

段階確認一覧表

種 別	細別	確認時期	確認項目	確認の程度
土留工	鋼矢板	施工前 施工後	矢板等の数量 根入れ長さ	1回/150枚
舗装工	下層路盤	ﾌﾟﾙｰﾌﾛｰﾘﾝｸﾞの実施時	ﾌﾟﾙｰﾌﾛｰﾘﾝｸﾞの実施状況	1回以上/1工事
舗装工	路盤	施工前後	厚さ	1回以上/1工事
舗装工	表層・基層	施工前後	厚さ	1回以上/1工事
仮配管工		通水時	水質の確認状況	1回以上/1工事
仮配管工		通水時	水圧試験の実施状況	1回以上/1工事
本配管工		施工前	材料検収及び保管状況	1回以上/1工事
本配管工		通水時	水質の確認状況	1回以上/1工事
本配管工		通水時	水圧試験の実施状況	1回以上/1工事
不断水工	穿孔径 φ250以上	穿孔前	水圧試験による 既設管との水密確認	1回/1施行箇所
水管橋 上部工		施工前	材料検収及び保管状況	1回/1施行箇所
水管橋 下部工	躯体	鉄筋の組立て 完了後	使用材料 配筋ﾋﾟｯﾁ、ｽﾍﾟｰｻｰの個数	1回/1施行箇所
水管橋 下部工	躯体	埋戻し前	寸法 設計図書との対比	1回/1施行箇所

◆上記は、開削工法による一般的な水道工事を対象にしたものであり、土木工事現場必携（第5章 5－3施工関係様式）に準じた工種がある場合は、これに準じるものとする。

◆上記以外にも、設計書で定められている場合および監督員が実施について**通知**した場合は段階確認を受ける。

◆「確認の程度」は確認頻度の目標であり、実施にあたっては工事内容及び施工状況等を勘案の上、監督員と協議し設定する。

◆請負者は、事前に段階確認に関わる報告を上記を参考に所定の様式により監督員に提出。
また、施工前までに週間工程表の提出に合わせて具体的な施工予定時期や実施場所を記載したものを別に提出する。

【 様式第4その1 】

施工状況把握一覧表

種 別	細別	施工時期	把握項目	把握の程度
土工	埋め戻し	施工中	使用材料・ 敷き均し・締固め状況	1回以上/1工事
舗装工	路盤	施工中	使用材料・ 敷き均し・締固め状況	1回以上/1工事
舗装工	表層・基層	施工中	使用材料・敷き均し・締固め状況 天候、気温、舗設温度	1回以上/1工事
本配管	管据付	管の吊込み時	管の吊込み状況	1回以上/1工事
本配管	継手接合	継手の接合時	継手の接合状況 （継手チェックシート等に基づく）	1回以上/1工事
本配管	ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝｽﾘｰﾌﾞ被覆	施工中	ﾗｯﾌﾟ長さ、固定間隔	1回以上/1工事
本配管	ﾛｹｰﾃｨﾝｸﾞﾜｲﾔｰ	施工中	先端部の防食処理、相互接続 固定間隔	1回以上/1工事
不断水工	穿孔径 φ250以上	施工中	本管への設置状況、穿孔状況	1回/1施行箇所
水管橋 上部工	継手接合	継手の接合時	継手の接合状況	1回/1施行箇所
水管橋 下部工	躯体	施工中	ｺﾝｸﾘｰﾄの打設状況	1回/1施行箇所

◆上記は、開削工法による一般的な水道工事を対象にしたものであり、土木工事現場必携（第5章　5－3施工関係様式）に準じた工種がある場合は、これに準じるものとする。

◆上記以外にも、設計書で定められている場合および監督員が実施について**通知**した場合は施工状況把握を受ける。

◆「把握の程度」は確認頻度の目標であり、実施にあたっては工事内容及び施工状況等を勘案の上、監督員と協議し設定する。

◆請負者は、事前に施工状況把握に関わる報告を上記を参考に所定の様式により監督員に提出。
また、施工前までに週間工程表の提出に合わせて具体的な施工予定時期や実施場所を記載したものを別に提出する。

【　様式第５　】

（断水・通水切替）計画書

年　　月　　日

請負者名

現場代理人

1．工 事 名 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

2．工事場所 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

3．日　　時

＿＿＿＿年　月　日（　）　時　分　～　　年　月　日（　）　時　分

4．区　　域 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

5．断水件数

・直圧方式＿＿＿件　　・受水槽式＿＿＿件　　（合計＿＿＿件）

6．使用者への通知

・断水通知ビラの配布は、＿月　日に行います。

7．施工方法

・（断水・通水切替）作業

①仕切弁操作　：　操作順序　（別紙）

②確認箇所　：　＿＿＿＿＿＿にて確認

（濁水処理作業　監督員と協議し決定すること。

①仕切弁操作　：　操作順序　（別紙）

②濁水処理　：　＿＿＿＿＿＿にて濁水処理）

8．仕切弁操作員氏名 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿緊急連絡先＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

※　切替作業後の濁水等による苦情処理について、責任を持って対応します。

区域には町名を記入すること。

（　添付図書　）

◆断水管路・断水操作仕切弁・水質・水圧確認箇所等を等明示した配水管網図

◆断水家屋、直圧・受水槽区分を明示した住宅地図

◆配布予定の断水ビラ

記入例 **【　様式第５　】**

（断水・通水切替）計画書

20○○（令和）年○月○○日

請負者名　　(株)○○○○

現場代理人　　●●●●

1．工　事　名　○○町配水管布設替工事 R○○ - ○○

2．工事場所

3．日　　時

20○○（令和）年○月○日（○）9 時 00 分～20○○（令和）年○月○日（○）16 時 00 分

4．区　　域　豊川市○○町（路線○）

5．断水件数

・直圧方式　20　件　　・受水槽式　1　件　　（合計　21　件）

6．使用者への通知

・断水通知ビラの配布は、○月○日に行います。

7．施工方法

・（断水・通水切替）作業

② 仕切弁操作　：　操作順序　（別紙）

②確認箇所　：　ﾄﾞﾚﾝ○　にて確認

（濁水処理作業　　監督員と協議し決定すること。

② 仕切弁操作　：　操作順序　（別紙）

②濁水処理　：　ﾄﾞﾚﾝ○　にて濁水処理）

8．仕切弁操作員氏名　○○○○　　緊急連絡先　○○-○○○○

※　切替作業後の濁水等による苦情処理について、責任を持って対応します。

区域には町名を記入すること。

（　添付図書　）

◆断水管路・断水操作仕切弁・水質・水圧確認箇所等を等明示した配水管網図

◆断水家屋、直圧・受水槽区分を明示した住宅地図

◆配布予定の断水ビラ

【 様式第6その1 】

水質・水圧確認結果一覧表 （本配管）

工事名	○○町配水管新設工事R○○－○○
工事場所	豊川市 ○○町 地内
工期	20○○(令和)○○年○○月○○日 ～ 20○○(令和)○○年○○月○○日
施工業者	株式会社 ○○○○　　現場代理人 ： 豊川 太郎

		水質試験結果								水圧試験結果				
実施箇所	検査日	味	臭い	色	濁り	残留塩素（mg/l）	判定	備考		初期（Mpa）	2分経過後（Mpa）	5分経過後（Mpa）	判定	備考

（基準値）
*残留塩素　0.10mg/l 以上 1.00mg/l 以下

（基準値）
*初期（試験）水圧　0.74Mpa
*2分経過後の水圧 0.74Mpa（初期水圧）保持。
*5分経過後の水圧 0.60Mpa以上保持。

水質・水圧確認結果一覧表 （仮配管）

工事名	○○町配水管新設工事R○○－○○
工事場所	豊川市 ○○町 地内
工期	20○○(令和)○○年○○月○○日 ～ 20○○(令和)○○年○○月○○日
施工業者	株式会社 ○○○○　　現場代理人 ： 豊川 太郎

		水質試験結果								水圧試験結果				
実施箇所	検査日	味	臭い	色	濁り	残留塩素（mg/l）	判定	備考		初期（Mpa）	2分経過後（Mpa）	5分経過後（Mpa）	判定	備考

（基準値）
*残留塩素　0.10mg/l 以上 1.00mg/l 以下

（基準値）
*初期（試験）水圧　0.74Mpa
*2分経過後の水圧 0.74Mpa（初期水圧）保持。
*5分経過後の水圧 0.60Mpa以上保持。

【 様式第6その2 】

水 質 確 認 結 果 書

（配水池を除く配水施設）

株式会社 ○○○○

記録者氏名　現場代理人;豊川 太郎

施設の名称	配水管 （ 本配管 ・ 仮配管 ）
工 事 名	○○町配水管布設替工事 R○○-○○
採水年月日	年　　月　　日
採 水 者（ 現場代理人 又は 監督職員名 ）	
採水地点等	（別紙施工箇所図のとおり）

	項目	結果
1	味	
2	臭い	
3	色（目視による確認）	
4	濁り（目視による確認）	
5	残留塩素	（mg/l）

判 定
その他（添付書類）
施工箇所図、水質確認の写真

水道技術管理者

（基準値）
*残留塩素　0.10mg/l 以上 1.00mg/l 以下

【 様式第6その3 】

施 設 検 査 記 録 簿

（配水池を除く配水施設）

株式会社 ○○○○

記録者氏名　現場代理人;豊川 太郎

項 目			内 容
1 工事名及び工事番号			○○町配水管布設替工事R○○-○○
2 施設の名所			配水管 （ 本配管 ・ 仮配管 ）
3 工事の場所			豊川市　　地内
4 施設の新設、増設及び改造の種類			
5 施設の概要及び能力			【 水圧試験結果 】
○印	（ 管 種 ）	（口径）	
	ﾀﾞｸﾀｲﾙ鋳鉄管（GX・NS形）		（ 初期水圧 ）
	水道配水用ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝ管		Mpa
	水道用ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝ二層管		（ 2分経過後の水圧 ）
	鋼帯外装ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝ管		Mpa
	溶接-ステンレス鋼管		（ 5分経過後の水圧 ）
			Mpa
	レンタル-鋼管		
	転用-水道用ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝ二層管		
6 工事の竣工 年月日 （工期完了日）			年　月　日
7 給水開始予定 年月日 （通水切替日）			年　月　日 ＊水圧検査日以降の日付
8 給水開始前検査 年月日 （水圧検査日）			年　月　日
9 検査者氏名（ 現場代理人 又は 監督職員名 ）			
10 検査結果			
11 その他（必要事項、添付書類）			施工箇所図、水圧試験結果の写真

（基準値）
*初期（試験）水圧　0.74Mpa
*2分経過後の水圧　0.74Mpa（初期水圧）保持。
*5分経過後の水圧　0.60Mpa以上保持。

水道技術管理者

【　残留塩素の測定をしている写真　】

＊写真には**水質確認者**が写っていること。
＊採水日付・採水箇所名・採水者名を黒板に記入。
＊残留塩素の測定値を黒板に記入。

採水箇所が確認できる全景

水質確認

残留塩素測定

採水場所

【　残留塩素の測定値　拡大写真　】

＊塩素測定器による色の判別がし易いように、
測定器の背面に白色用紙等をあてること。

水質確認

残留塩素測定

（測定値の拡大写真）

【　色、濁り等を目視で確認している写真　】

＊写真には**水質確認者**が写っていること。
＊採水日付・採水箇所名・採水者名を黒板に記入。

水質確認

味、臭い、色、濁り

水圧確認

初期水圧

【　初期水圧の測定写真　】

＊写真には水圧確認者が写っていること。
＊確認日付・採水箇所名・確認者名を黒板に記入。

試験箇所が確認できる全景

水圧確認

2分後水圧

【　2分後水圧の測定写真　】

＊写真には水圧確認者が写っていること。
＊確認日付・採水箇所名・確認者名を黒板に記入。

試験箇所が確認できる全景

水圧確認

5分後水圧

【　5分後水圧の測定写真　】

＊写真には水圧確認者が写っていること。
＊確認日付・採水箇所名・確認者名を黒板に記入。

試験箇所が確認できる全景

【　初期水圧の測定　　拡大写真　】

＊測定値が確認できる写真。

水圧確認

初期水圧

（測定値の拡大写真）

【　2分後水圧の測定　　拡大写真　】

＊測定値が確認できる写真。

水圧確認

2分後水圧

（測定値の拡大写真）

【　5分後水圧の測定　　拡大写真　】

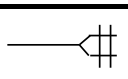
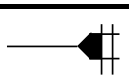
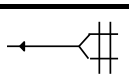
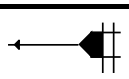
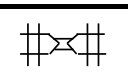
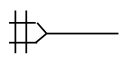
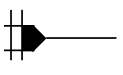
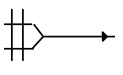
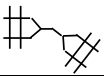
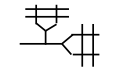
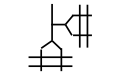
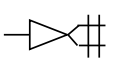
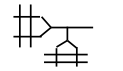
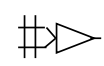
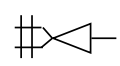
＊測定値が確認できる写真。

水圧確認

5分後水圧

（測定値の拡大写真）

NSチェックシート記入方法

<table>
<tr><td>管NO.及び形状</td><td colspan="7">管に通し番号又は管理番号を記入する</td></tr>
<tr><td rowspan="2">略図1</td><td>  </td><td>  </td><td>  </td><td>  </td><td> </td><td> </td><td>  </td></tr>
<tr><td>直管</td><td>直管ライナ使用</td><td>甲切管</td><td>甲切管ライナ使用</td><td>乙切管</td><td>乙切管</td><td>継輪</td></tr>
<tr><td rowspan="2">略図2</td><td>  </td><td>  </td><td>  </td><td> </td><td></td><td>  </td><td> </td></tr>
<tr><td>直管</td><td>直管ライナ使用</td><td>甲切管</td><td>甲切管ライナ使用</td><td>乙切管</td><td>両受曲管</td><td>両受仕切弁</td></tr>
<tr><td rowspan="2">略図3</td><td> </td><td> </td><td>  </td><td>  </td><td> </td><td>  </td><td></td></tr>
<tr><td>曲管</td><td>仕切弁</td><td>T字管</td><td>T字管（首）</td><td>受挿し片落ち管</td><td>挿し受片落ち管</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">略図4</td><td> </td><td> </td><td>  </td><td> </td><td>  </td><td>  </td><td></td></tr>
<tr><td>曲管</td><td>仕切弁</td><td>T字管</td><td>T字管（首）</td><td>受挿し片落ち管</td><td>挿し受片落ち管</td><td></td></tr>
<tr><td>継手　NO</td><td colspan="7">配管図に継手の管理番号を記入し管理している場合、その番号を記入する</td></tr>
<tr><td>清　掃</td><td colspan="7">受口溝内の清掃、ゴム輪の清掃　すべて清掃した場合「〇」、「OK」</td></tr>
<tr><td>滑　材</td><td colspan="7">滑材はダクタイル鉄管継手用滑材を使用し受口ゴム輪当り面、挿口外面の端面から白線までの範囲にムラなく塗布する。 施工要領書に基づき、塗布完了した場合 「〇」、「OK]と記入</td></tr>
<tr><td>受口溝</td><td colspan="7">ロックリング芯だし用ゴム、ロックリングが所定の位置に正しく装着されている場合、「〇」、「OK]と記入</td></tr>
<tr><td>受口面
～
ゴム輪
の間隔</td><td colspan="7">受口と挿し口の隙間に薄板ゲージを図の①’ ②③’ ④⑤’ ⑥⑦’ ⑧に挿入し一部分だけ大きく入り込まないことを確認し、入り込み量を測定し記入する。ゲージの入り込み量がたの部分に比べて異常に大きい場合ば解体して再接合する。
口径200㎜以下は②④⑥⑧の4箇所とする。

（判定の目安）

・ゴム輪装着後、受口面から、ゴム輪の一番高いところまでの距離を測定する（仮測定）

・挿し口挿入後入り込み量を測定し仮測定値以下であることを確認する。</td></tr>
<tr><td>④受口端面
－
白線の間隔(A)
胴付間隔（X）</td><td colspan="7">受口端面と白線Bまでの間隔（a）を4箇所測定し、その値の最大と最小の差が下表の値であることを確認する。また胴付間隔は、受口端面が白線Aの線上になっていることが標準であるため、（a）の値は80㎜前後であることも確認する。
間隔（a）及び胴付間隔が許容値を超える場合は、継手を解体し再度施工する。この場合、ゴム輪は新しいものと交換する。
<table>
<tr><th rowspan="2">呼び径（mm）</th><th rowspan="2">許容曲げ角度（θ）</th><th rowspan="2">（a）寸法の差≦許容値（mm）</th><th colspan="3">管1本当りに許容される偏位 δ（cm）</th></tr>
<tr><th>4m管</th><th>5m管</th><th>6m管</th></tr>
<tr><td>75</td><td>4° 00′</td><td>6</td><td>28</td><td>－</td><td>－</td></tr>
<tr><td>100</td><td>4° 00′</td><td>8</td><td>28</td><td>－</td><td>－</td></tr>
<tr><td>150</td><td>4° 00′</td><td>12</td><td>－</td><td>35</td><td>－</td></tr>
<tr><td>200</td><td>4° 00′</td><td>15</td><td>－</td><td>35</td><td>－</td></tr>
<tr><td>250</td><td>4° 00′</td><td>19</td><td>－</td><td>35</td><td>－</td></tr>
<tr><td>300</td><td>3° 00′</td><td>17</td><td>－</td><td>－</td><td>31</td></tr>
<tr><td>350</td><td>3° 00′</td><td>20</td><td>－</td><td>－</td><td>31</td></tr>
<tr><td>400</td><td>3° 00′</td><td>22</td><td>－</td><td>－</td><td>31</td></tr>
<tr><td>450</td><td>3° 00′</td><td>25</td><td>－</td><td>－</td><td>31</td></tr>
<tr><td>500</td><td>3° 20′</td><td>31</td><td>－</td><td>－</td><td>35</td></tr>
<tr><td>600</td><td>2° 50′</td><td>31</td><td>－</td><td>－</td><td>29</td></tr>
<tr><td>700</td><td>2° 30′</td><td>32</td><td>－</td><td>－</td><td>26</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>判定</td><td colspan="7">総合的に接合の結果を評価し、すべてが条件を満たしている場合、「OK」、又は「〇」を記入する。</td></tr>
</table>

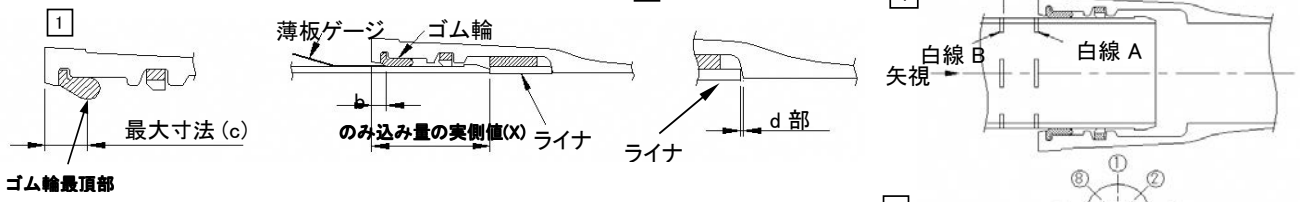
【様式第7その1】

NS形継手チェックシート（直管・ライナ使用・異形管 φ75～φ250）

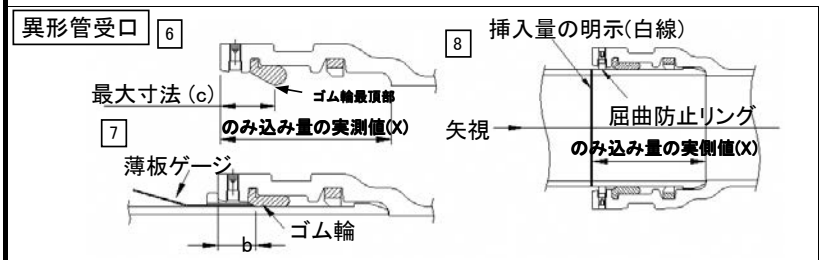
工事名	
図面No.・測点	
呼び径	

		配管工

直管受口



異形管受口



管　No.							
管の種類							
略図／ライナ							

継　手　No.								
清　　掃								—
ﾛｯｸﾘﾝｸﾞ・ﾛｯｸﾘﾝｸﾞ心出し用ｺﾞﾑの確認								—
ライナ位置の確認(d部)※1								3
挿し口の挿入量の明示(白線)								5 8
受口端面～ゴム輪最頂部の最大寸法(c)								1 6
滑　　剤								—
明示した白線位置の確認※2								5 8
薄板ゲージの入り込み量(b)（ゴム輪の位置確認）	全周チェック							2 7
	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
	⑦							
	⑧							
受口端面～白線B間隔(a)	①							4
	③							
	⑤							
	⑦							
屈曲防止リングの確認※3								8
判　　定								—

判定基準　受口端面～ゴム輪間隔(b)＜受口端面～ゴム輪最頂部の最大寸法(C)

※1　ライナが受口奥部に当たっている事を、4.5㎜の隙間ゲージを用いて確認する。

※2　接合直後に、明示した白線が全周にわたり受口端面の位置にあるか確認する。

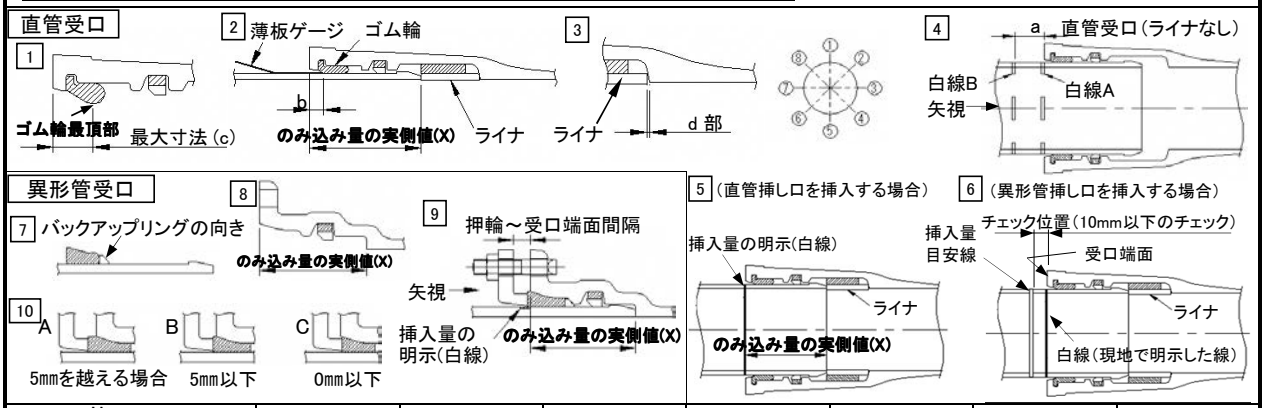
※3　屈曲防止用突部（直管挿し口の場合は挿し口外面）と屈曲防止リングの間に薄板ゲージが入らないこと。

【様式第7その2】

NS形継手チェックシート(直管・ライナ使用・異形管φ300～φ450)

工事名	
図面No.・測点	
呼び径	

		配管工



管 No.							
管の種類							
略図／ライナ							

継手 No.								
清掃								—
ﾛｯｸﾘﾝｸﾞ・ﾛｯｸﾘﾝｸﾞ心出し用ｺﾞﾑの確認								—
ライナ位置の確認(d部)※1								3
挿し口の挿入量の明示(白線)								5 9
受口端面～ゴム輪最頂部の最大寸法(c)								1
滑剤								—
明示した白線位置の確認※2								5 9
挿し口の抜け出しチェック(異形管受口)※3								—
挿入量目安線(赤線)と受口端面間距離の確認(異形管挿し口)※4								6
マーキング(白線)の明示(異形管挿し口)※5								6
薄板ゲージの入り込み量(b)(ゴム輪の位置確認)	全周チェック							2
	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
	⑦							
	⑧							
受口端面～白線B間隔(a)	①							4
	③							
	⑤							
	⑦							
バックアップリングの向き※6								7
ボルト・ナット	数							—
	ﾄﾙｸ(N･m)							—
押輪～受口端面間隔※7	①							9
	③							
	⑤							
	⑦							
ゴム輪の出入り状態※8	①							10
	③							
	⑤							
	⑦							
判定								—

判定基準　受口端面～ゴム輪間隔(b)＜受口端面～ゴム輪最頂部の最大寸法(C)

※1 ライナが受口奥部に当たっている事を、4.5㎜の隙間ゲージを用いて確認する。
※2 接合直後に、明示した白線が全周にわたり受口端面の位置にあるか確認する。
※3 挿し口を異形管受口に挿入し、ストッパを取り外した後、挿し口を上下左右前後に振って抜けないことを確認する。
※4 挿入量目安線(赤線)と受口端面間距離が全周にわたり10㎜以下であるか確認する。
※5 挿し口外周へ受口端面位置の白線を表示したか確認する。
※6 バックアップリングの向き :テーパ部は挿し口端面側、切断部は受口内面切欠き部をさけた位置にあること。
※7 押輪～受口端面間隔 :最大値－最小値≦5㎜(同一円周上)。
※8 ゴム輪の出入り状況 :同一円周上にA、CまたはA、B、Cが同時に存在しないこと。

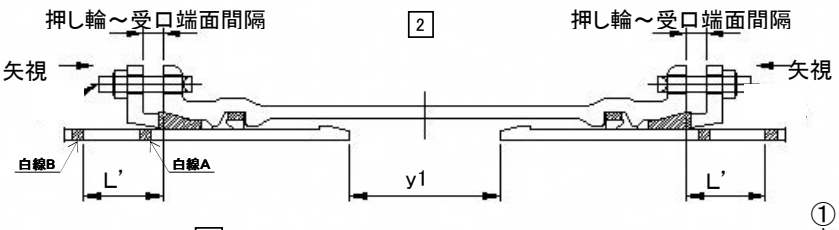
【様式第7その3】

NS形継ぎ輪チェックシート(φ75～φ450)

工事名	
図面No.・測点	
呼び径	

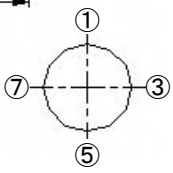
		配管工

1
バックアップリングの向き

2


3
ゴム輪の出入り状態

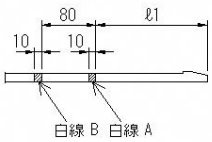
5㎜を越える場合　5㎜以下　0㎜以下



管　No				
管の種類				
略図				
継手No				
清　　掃				―
受口溝(ロックリング)の確認				―
バックアップリングの向き※1				1
両挿し口端の間隔(y1)※2	①			2
	③			
	⑤			
	⑦			
受口端面～白線Bの間隔(L') ※3	①			2
	③			
	⑤			
	⑦			
滑　　剤				―
ボルト・ナット	数			―
	トルク(N・m)			―
押輪～受口端面間隔※4	①			2
	③			
	⑤			
	⑦			
ゴム輪の出入り状況※5	①			3
	③			
	⑤			
	⑦			
判　　定				―

備考

1.白線表示の位置



単位mm

呼び径	ℓ1
75	165
100	170
150	195
200	195
250	195
300	230
350	240
400	240
450	245

2.両挿し口端の間隔 (y1)

単位mm

呼び径	y1
75、100	220
150～250	250
300～450	300

3.挿し口白線Bと受口端面の間隔 (L')

単位mm

呼び径	75	100	150～250	300	350、400	450
L'	80	85	100	150	160	165

判定基準　※1 バックアップリングの向き :テーパ部は挿し口端面側、切断部は受口内面切欠き部をさけた位置にあること。
※2 せめ配管する場合に記入すること。
※3 一方から順次配管する場合に記入すること。
※4 押輪～受口間隔　:最大値-最小値≦5㎜(同一円周上)
※5 ゴム輪の出入り状況　:同一円周上にA、CまたはA、B、Cが同時に存在しないこと。

【様式第7その4】

NS形切管チェックシート（φ75～φ450　タッピンねじタイプ）

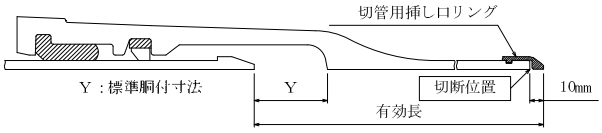
工事名 路線名	
配管図No. 測　点 No.	
呼び径・管種	

		配管工

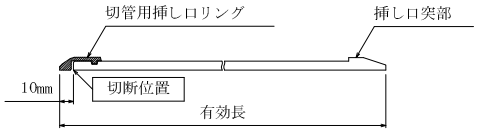
継手施工社（　　）

③

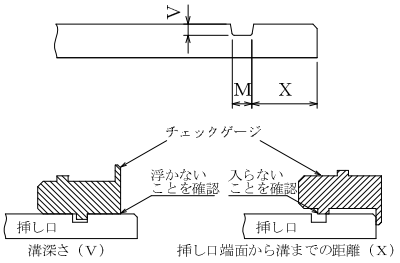
（甲切管）ライナを入れない場合



（乙切管）挿し口加工１箇所の場合

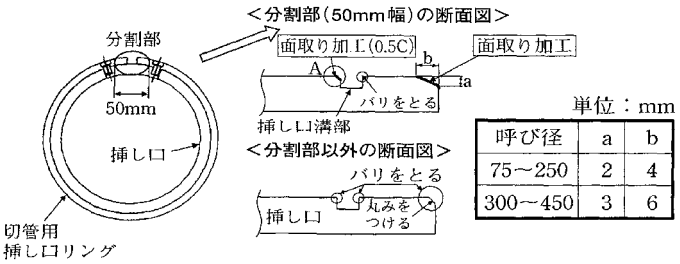


④ **（チェックゲージで全周確認）**



呼び径	M		V		X	
	寸法	許容差	寸法	許容差	寸法	許容差
75～250	4.6	+1.0 0	2.6	0 -0.6	15	+1.0 -2.0
300～450					20	+1.0 -2.0

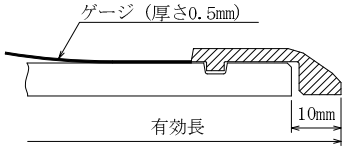
⑤



単位：mm

呼び径	a	b
75～250	2	4
300～450	3	6

⑥ **（ゲージで全周確認）**



①管No.					
②呼び径・管種・管厚	呼び径	φ	φ	φ	φ
	管種				
	管厚				
③切管の種類・長さ（有効長）・略図		甲切管・乙切管 有効長＝	甲切管・乙切管 有効長＝	甲切管・乙切管 有効長＝	甲切管・乙切管 有効長＝
④チェックゲージでの確認（全周）	M				
	V				
	X				
⑤溝・端面の面取りおよびバリ取り					
⑥挿し口リング取り付けの隙間（全周）					
判　　定					

備　　考

1. 切管には必ず1種管を用いる。呼び径300～450では受口近傍に白線表示のある切用管を用いること。
2. 有効長は、切断位置から10mm伸びるので注意すること。
3. チェックゲージでの確認④では、呼び径75～250と呼び径300～450ではX寸法が異なるため、使用するゲージが異なるので注意すること。
4. 溝部、面取り加工部及び切断した端面には、ダクタイル鉄管切管鉄部用塗料で塗装する。

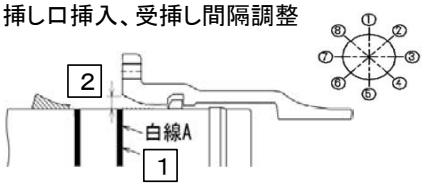
【様式第7その5】

NS形直管チェックシート(φ500～φ1000)

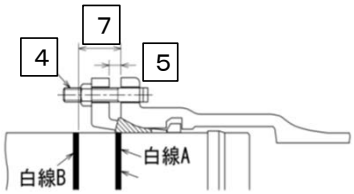
工事名	
図面No.・測点	
呼び径	

		配管工

挿し口挿入、受挿し間隔調整



ボルトナット取付



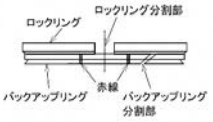
7 の最大−最小値の許容値

単位:mm

呼び径	X
500	31
600	31
700	32
800	32
900	32
1000	33

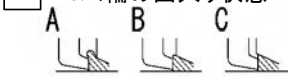
3 ﾊﾞｯｸｱｯﾌﾟﾘﾝｸﾞの向き、分割部の位置

(1)



(2)

6 ゴム輪の出入り状態



管 No.								
管の種類								
略 図								

継手No.									—
清 掃									—
挿入量の確認	①								1
	③								
	⑤								
	⑦								
受挿し隙間の調整									2
バックアップリングの向き、分割部の位置※1	(1)								3
	(2)								
滑 剤									—
押輪分割部の上下配置									—
ボルト・ナット	数								4
	トルク N・m								
押輪～受口間隔※2	①								5
	③								
	⑤								
	⑦								
ゴム輪の出入り状態※3	①								6
	②								
	③								
	④								
	⑤								
	⑥								
	⑦								
	⑧								
	めくれ								
白線B～受口間隔※4	①								7
	③								
	⑤								
	⑦								
判 定									—

判定基準

※1 バックアップリングの向き、分割部の位置
(1)バックアップリングの羽根部がゴム輪側にあること。
(2)バックアップリング分割部とロックリング分割部が重ならないこと。

※2 押輪～受口間隔:最大値－最小値≦5mm(同一円周上)

※3 ゴム輪の出入り状態
(1)同一円周上にA、CまたはA、B、Cが同時に存在しないこと。
(2)ゴム輪の角部が押輪に乗り上げためくれ状態(右図)が存在しないこと。

※4 白線B～受口間隔:最大値－最小値≦X(X:上表参照)

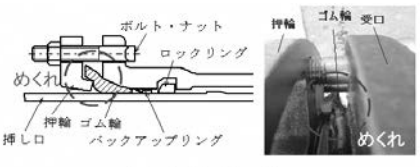


図 接合不良の例

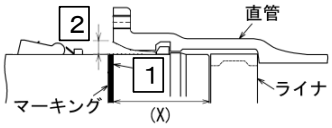
【様式第7その6】

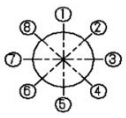
NS形直管(ライナ使用)・異形管チェックシート(φ500～φ1000)

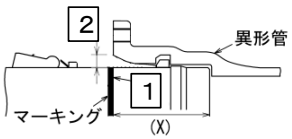
工事名	
図面No.・測点	
呼び径	

		配管工

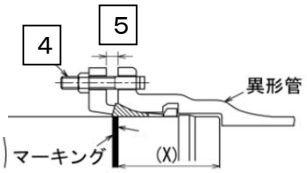
挿し口挿入、受挿し間隔調整





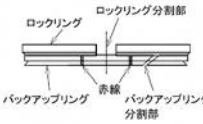


ボルトナット取付



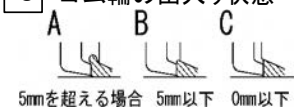
3 ﾊﾞｯｸｱｯﾌﾟﾘﾝｸﾞの向き、分割部の位置

(1)



(2)

6 ゴム輪の出入り状態



管　No.								
管の種類								
略　図								

継手No.									—
清　掃									—
挿し口の挿入量(X)の明示									1
挿入量の確認※1	①								1
	③								
	⑤								
	⑦								
抜け出しチェック									—
受挿し隙間の調整									2
バックアップリングの向き、分割部の位置※2	(1)								3
	(2)								
滑　剤									—
押輪分割部の上下配置									—
ボルト・ナット	数								4
	トルク N・m								
押輪～受口間隔※3	①								5
	③								
	⑤								
	⑦								
ゴム輪の出入り状態※4	①								6
	②								
	③								
	④								
	⑤								
	⑥								
	⑦								
	⑧								
	めくれ								
判　定									—

判定基準
※1 挿入量確認:現地で明示した白線上に受口端面があること。
※2 バックアップリングの向き、分割部の位置
(1)バックアップリングの羽根部がゴム輪側にあること。
(2)バックアップリング分割部とロックリング分割部が重ならないこと。
※3 押輪～受口間隔:最大値－最小値≦5mm(同一円周上)
※4 ゴム輪の出入り状態
(1)同一円周上にA、CまたはA、B、Cが同時に存在しないこと。
(2)ゴム輪の角部が押輪に乗り上げためくれ状態(右図)が存在しないこと。

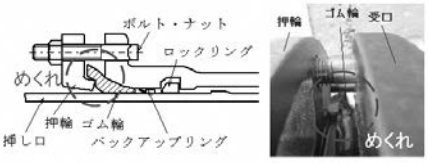


図　接合不良の例

【様式第7その7】

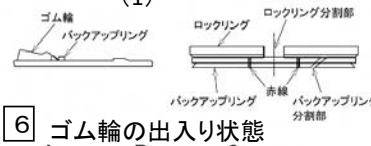
NS形継ぎ輪チェックシート(φ500～φ1000)

工事名	
図面No.・測点	
呼び径	

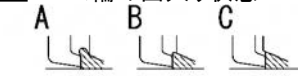
		配管工

3 ﾊﾞｯｸｱｯﾌﾟﾘﾝｸﾞの向き、分割部の位置

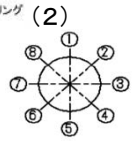
(1)

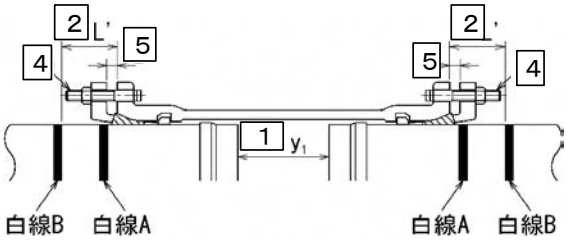


6 ゴム輪の出入り状態



(2)





管　No.			
管の種類			
略　図			

継手No.				
清　掃				—
両挿し口端の間隔 (y_1)	①			1
	③			
	⑤			
	⑦			
受口端面～白線の間隔 (L')	①			2
	③			
	⑤			
	⑦			
受挿し隙間の調整				—
バックアップリングの向き、分割部の位置※1	(1)			3
	(2)			
滑　剤				—
押輪分割部の上下配置				—
ボルト・ナット	数			4
	トルク N・m			
押輪～受口間隔※2	①			5
	③			
	⑤			
	⑦			
ゴム輪の出入り状態※3	①			6
	②			
	③			
	④			
	⑤			
	⑥			
	⑦			
	⑧			
	めくれ			
判　定				—

備考

1. 白線表示の位置

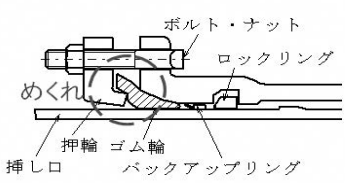
呼び径	ℓ_1 (mm)
500	220
600	220
700	257
800	265
900	265
1000	268

2. 両挿し口端の間隔(y_1)
およびL'寸法(y_1の場合)

呼び径	y_1 (mm)	L' (mm)
500	260	105
600	260	105
700	300	87
800	305	98
900	305	98
1000	310	103

判定基準
※1バックアップリングの向き、分割部の位置
(1)バックアップリングの羽根部がゴム輪側にあること。
(2)バックアップリング分割部とロックリング分割部が重ならないこと。
※2 押輪～受口間隔:最大値－最小値≦5mm(同一円周上)
※3 ゴム輪の出入状態
(1)同一円周上にA、CまたはA、B、Cが同時に存在しないこと。
(2)ゴム輪の角部が押輪に乗り上げためくれ状態(右図)が存在しないこと

注)両挿し口端の間隔(y_1)は、一方から配管する場合には記入不要。
L'(受口端面～白線の間隔)は、せめ配管の場合には記入不要。



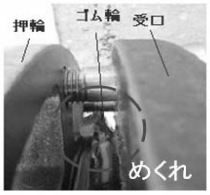


図　接合不良の例

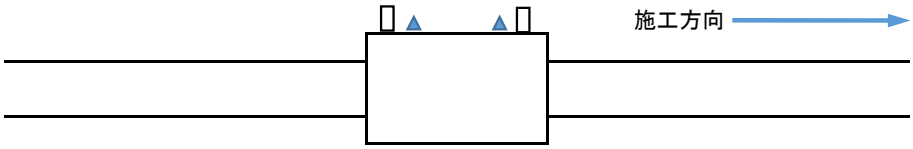
ＥＦソケット接合チェックシート

工事名 路線名	
配管図No. 測 点 No.	
呼び径(mm)	

配管従事者		主任技術者	現場代理人

継手施工社(　　)

発電機の仕様		コントローラーの仕様	
正常作動確認		正常作動確認	



施工月日							
継手 No. 及び 形状							
略図	直管及び切管寸法は必ず記入のこと(cm)						
天候							
写真の有無	有 無	有 無	有 無	有 無	有 無	有 無	有 無
陸継ぎの有無	有 無	有 無	有 無	有 無	有 無	有 無	有 無
曲げ配管の有無	有 無	有 無	有 無	有 無	有 無	有 無	有 無
湧水の有無	有 無	有 無	有 無	有 無	有 無	有 無	有 無
管の点検・清掃							
スクレープ							
アセトン(エタノール)清掃							
標線の確認							
通電開始時刻	:	:	:	:	:	:	:
通電終了時刻	:	:	:	:	:	:	:
インジケータの確認							
クランプ取り外し時刻	:	:	:	:	:	:	:
埋戻し開始時刻	:	:	:	:	:	:	:
接合総合判定							

備考:

呼び径	50	75	100	150	200
冷却時間(分)	5	10			15

清掃時にエタノールを使用する場合は純度95%以上のものを使用し，融着の際には十分乾燥してから実施する。
清掃は素手で，専用のペーパータオルを使用する。エタノール・アセトンが長時間皮膚に触れないように注意する。
エタノール・アセトンは消防法の危険物に該当。保管にあたっては，法令及び地方自治体の条例を遵守。

【　様式第8その1　】

出来形成果総括表（2－1）

工事名　　〇〇町配水管布設替工事R〇〇－〇〇

工事場所　　豊川市　〇〇町　地内

工種 種別	細別	規格	単位	実測値 設計値	路線1	路線1 -支1	路線1 -支2	路線1 -支3	路線1 -支4	路線1 -支5	路線2	路線3	路線4		全路線	
配水管 布設工	ﾀﾞｸﾀｲﾙ 鋳鉄管	φ250	m	実測値							82.0					
				設計値							81.5					
〃	ﾀﾞｸﾀｲﾙ 鋳鉄管	φ200	m	実測値	374.0	7.5										
				設計値	372.9	6.9										
〃	ﾀﾞｸﾀｲﾙ 鋳鉄管	φ150	m	実測値								120.5				
				設計値								120.0				
〃	ﾀﾞｸﾀｲﾙ 鋳鉄管	φ100	m	実測値						9.0			91.0			
				設計値						8.5			90.8			
〃	ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝ管	φ50	m	実測値			3.7	11.0	6.0							
				設計値			4.0	10.0	5.2							
	ｿﾌﾄｼｰﾙ 仕切弁	φ250	箇所	実測値							1					
				設計値							1					
〃	仕切弁	φ200	箇所	実測値	8	1										
				設計値	8	1										
〃	仕切弁	φ150	箇所	実測値								2				
				設計値								2				
〃	仕切弁	φ100	箇所	実測値						1			2			
				設計値						1			2			
〃	青銅ﾊﾞﾙﾌﾞ	φ50	箇所	実測値			1	1	1							
				設計値			1	1	1							
消火栓 設置工	地下式 消火栓	単口	箇所	実測値	1							1				
				設計値	1							1				
空気弁 設置工	地下式 空気弁		箇所	実測値	1											
				設計値	1											
				実測値												
				設計値												
路面 復旧工	本舗装 市道	5cm	㎡	実測値											960.0	
				設計値											950.0	
〃	本舗装 歩道	3cm	㎡	実測値											180.0	
				設計値											175.1	
〃	本舗装 乗入A1	乗入A1 5cm	㎡	実測値											15.0	
				設計値											12.5	
〃	本舗装 県道	県道 5・5・6cm	㎡	実測値											18.0	
				設計値											14.2	
〃	区画線	実線 W=15cm	m	実測値											510.5	
				設計値											507.8	
〃	区画線	ｾﾌﾟﾗ W=30cm	m	実測値											36.0	
				設計値											33.9	
〃	区画線	ｾﾌﾟﾗ W=45cm	m	実測値											90.0	
				設計値											89.3	
〃	区画線	文字記号 15cm換算	m	実測値											175.0	
				設計値											171.4	
道路付属 復旧工	排水構造物	側溝 PU3-250	m	実測値							5.0					
				設計値							5.0					
〃	防護柵	ｶﾞｰﾄﾞﾚｰﾙ Gr-C-4E	m	実測値							4.0					
				設計値							4.0					
				実測値												
				設計値												
	仮舗装	3cm	㎡	実測値											510.0	
				設計値											500.0	
	仮舗装	5cm	㎡	実測値											30.0	
				設計値											28.0	
				実測値												
				設計値												

【　様式第8その1　】

出来形成果総括表（2－2）

工事名　　〇〇町配水管布設替工事R〇〇－〇〇

工事場所　　豊川市　〇〇町　地内

工種 種別	細別	規格	単位	実測値 設計値								合計	差	規格値	備考
配水管 布設工	ﾀﾞｸﾀｲﾙ 鋳鉄管	φ250	m									82.0 81.5	0.5	−0.2	
〃	ﾀﾞｸﾀｲﾙ 鋳鉄管	φ200	m									381.5 379.8	1.7	−0.2	
〃	ﾀﾞｸﾀｲﾙ 鋳鉄管	φ150	m									120.5 120.0	0.5	−0.2	
〃	ﾀﾞｸﾀｲﾙ 鋳鉄管	φ100	m									100.0 99.3	0.7	−0.2	
〃	ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝ管	φ50	m									20.7 19.2	1.5	−0.2	
	ｿﾌﾄｼｰﾙ 仕切弁	φ250	箇所									1 1		設計 以上	
〃	仕切弁	φ200	箇所									9 9		設計 以上	
〃	仕切弁	φ150	箇所									2 2		設計 以上	
〃	仕切弁	φ100	箇所									3 3		設計 以上	
〃	青銅ﾊﾞﾙﾌﾞ	φ50	箇所									3 3		設計 以上	
消火栓 設置工	地下式 消火栓	単口	箇所									2 2		設計 以上	
空気弁 設置工	地下式 空気弁		箇所									1 1		設計 以上	
路面 復旧工	本舗装 市道	5cm	㎡									960.0 950.0	10.0	設計 以上	
〃	本舗装 歩道	3cm	㎡									180.0 175.1	4.9	設計 以上	
〃	本舗装 乗入A1	乗入A1 5cm	㎡									15.0 12.5	2.5	設計 以上	
〃	本舗装 県道	県道 5・5・6cm	㎡									18.0 14.2	3.8	設計 以上	
〃	区画線	実線 W=15cm	m									510.5 507.8	2.7	設計 以上	
〃	区画線	ｾﾌﾟﾗ W=30cm	m									36.0 33.9	2.1	設計 以上	
〃	区画線	ｾﾌﾟﾗ W=45cm	m									90.0 89.3	0.7	設計 以上	
〃	区画線	文字記号 15cm換算	m									175.0 171.4	3.6	設計 以上	
道路付属 復旧工	排水構造物	側溝 PU3-250	m									5.0 5.0		−0.2	
〃	防護柵	ｶﾞｰﾄﾞﾚｰﾙ Gr-C-4E	m									4.0 4.0		−0.2	
	仮舗装	3cm	㎡									510.0 500.0	10.0	設計 以上	
	仮舗装	5cm	㎡									30.0 28.0	2.0	設計 以上	

【　様式第8その2　】

出来形測定結果一覧表

工　種　　開削本配管工

種　別　　管路土工･管布設工　φ250

測定者　豊川太郎　　印

単位：mm

測定項目	掘削　幅W1			掘削　深さh1			管下保護砂　厚さt1					
規格値	−50			−30			設計値以上					
測点又は区別	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差
【　路線○　】												
NO.1												
NO.2												
NO.3												
NO.4												
NO.5												
NO.6												
NO.7												

測定項目	管の土被りDP			管上保護砂　厚さt2			管上保護砂　幅W2			埋め戻し　幅W3		
規格値	DP0.7m以下は、設計値以上 DP0.7m超えは、−30			設計値以上			−50			−50		
測点又は区別	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	

測定項目	下層路盤　厚さt3			下層路盤　幅W4			仮AS舗装　厚さt4					
規格値	歩道−30、車道−45			−50			設計値以上					
測点又は区別	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差

（　備　考　）

＊略図は別紙添付。

＊本線の路線延長50mにつき1箇所で管理を行う。地下埋設物の迂回箇所等となり、標準断面とならない箇所はそれを避けた位置で管理を行う。

＊掘削幅・掘削深さは、土木標準仕様書P730の管きょ工に準ずる。

＊下層路盤・仮AS舗装は、土木標準仕様書P700のｱｽﾌｧﾙﾄ舗装及びP452の歩道舗装工に準ずる。下層路盤幅の管理は、最終仕上がりの層で行う。

＊仮舗装幅は面積で管理するため、省略。

【　様式第8その3　】

出来形測定結果一覧表

工　種　　路面復旧工

種　別　　本舗装工（県道B）

測定者　豊川太郎　　印

単位：mm

測定項目	下層路盤厚			上層路盤厚			基層厚			表層厚		
規格値	設計値以上			−25（粒調）、−15（瀝安）			−9			−7		
測点又は区別	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差
【 路線3 】												
NO.1	50	60	10	60	60	0	50	50	0	50	50	0
NO.2	50	50	0	60	55	−5	50	55	5	50	50	0
NO.3	50	50	0	60	60	0	50	50	0	50	50	0
NO.4	50	60	10	60	60	0	50	50	0	50	50	0
【 路線4 】												
NO.1	50	60	10	60	60	0	50	50	0	50	50	0
NO.2	50	55	5	60	60	0	50	50	0	50	50	0

測定項目	下層路盤厚			上層路盤厚			基層厚			表層厚		
規格値	設計値以上			−25（粒調）、−15（瀝安）			−9			−7		
測点又は区別	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	

測定項目	下層路盤厚			上層路盤厚			基層厚			表層厚		
規格値	設計値以上			−25（粒調）、−15（瀝安）			−9			−7		
測点又は区別	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差

（ 備 考 ）

＊略図は別紙添付。

＊本線の路線延長50mにつき1箇所で管理を行う。ただし、舗装構成毎に最低1箇所の管理を行う。

＊標準仕様書P452のｱｽﾌｧﾙﾄ舗装工に準ずる。

＊舗装幅は面積で管理するため、省略。

【　様式第8その4　】

弁類および消火栓筐　位置確認管理表

測定者　豊川太郎　　印

単位：mm

測定項目	G.L.から クリーンケースまでの高さ			弁芯中央からのズレ								
規格値	－30、＋60			30以内								
測点又は区別	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差
【　路線1　】												
仕切弁V1	280	280	0	0	10	10						
仕切弁V2	280	300	20	0	0	0						
仕切弁V3	280	260	−20	0	0	0						
仕切弁V4	280	280	0	0	10	10						
【　路線2　】												
仕切弁V1	280	260	−20	0	0	0						
仕切弁V2	280	270	−10	0	5	5						

測定項目	G.L.から 消火栓キャップまでの高さ			管鉛直方向の 本体と筐中心のズレ			G.L.から バタフライ弁の高さ					
規格値	－30～＋20			操作レバーと反対側に 30㎜～50㎜			設計値以上					
測点又は区別	設計値	実測値	差	設計値	実測値		設計値	実測値	差	設計値	実測値	差
【　路線1　】												
消火栓F1	180	190	10	30～50	30							
【　路線1　】												
バタフライ弁B1							150	300	150			

（　備　考　）

＊略図は別紙添付。

【　様式第8その5　】

測定結果チェックシート（開削本配管工）

工　種　開削本配管工

種　別　管路土工・管布設工　○

測定者　豊川　太郎　　印

単位：mm

測定項目	記号	規格値		路線名及び測点等							
				路線1 NO.1	路線1 NO.2	路線1 NO.3+5m	路線1 NO.4	路線2 NO.1	路線2 NO.1+45m	路線2 NO.2+30m	
掘削幅	W1	－５０	設計値	750	750	750	750	500	500	500	
			実測値	750	760	800	750	500	520	500	
			差	-	10	50	-	-	20	-	-
掘削深さ 床付高	H1	－３０	設計値	1,220	1,220	1,220	1,220	760	760	760	
			実測値	1,220	1,220	1,250	1,220	760	760	780	
			差	-	-	30	-	-	-	20	-
管下砂	H2										
			天高					660	660	660	
管下砂 厚さ	H1-H2	設計以上	設計値	-	-	-	-	100	100	100	
			実測値	-	-	-	-	100	100	120	-
			差	-	-	-	-	-	-	20	-
管の 土被り	DP	－３０	設計値	1,000	1,000	1,000	1,000	600	600	600	
			実測値	1,000	1,000	1,030	1,020	600	600	600	
			差	-	-	30	20	-	-	-	-
管の 出幅	ＯＰ										
			実測値	1,200	1,200	1,200	1,150	1,000	1,020	1,000	
管上砂	H3										
			天高	900	900	900	890	500	500	500	
管上砂 厚さ	DP-H3	設計以上	設計値	100	100	100	100	100	100	100	
			実測値	100	100	130	130	100	100	100	-
			差	-	-	30	30	-	-	-	-
管上砂 幅	W2	－５０	設計値	750	750	750	750	500	500	500	
			実測値	750	760	810	760	500	530	500	
			差	-	10	60	10	-	30	-	-
1層目 埋戻し											
			天高	700	700	700	700	300	300	300	
			仕上り厚	200	200	200	190	200	200	200	-
2層目 埋戻し											
			天高	500	500	500	500				
			仕上り厚	200	200	200	200	-	-	-	-
3層目 埋戻し											
			天高	300	300	300	300				
			仕上り厚	200	200	200	200	-	-	-	-
4層目 埋戻し											
			天高								
			仕上り厚	-	-	-	-	-	-	-	-
埋戻し 幅	W3	－５０	設計値	750	750	750	750	500	500	500	
			実測値	750	760	810	760	500	550	500	
			差	-	10	60	10	-	50	-	-
路盤床付	H4										
			天高	300	300	300	300	300	300	300	
1層目 路盤											
			天高	150	150	150	150	150	150	150	
			仕上り厚	150	150	150	150	150	150	150	-
2層目 路盤											
			天高	30	30	30	30	30	30	30	
			仕上り厚	120	120	120	120	120	120	120	-
路盤	H5										
			天高	30	30	30	30	30	30	30	
路盤 厚さ	H4-H5	－４５	設計値	270	270	270	270	270	270	270	
			実測値	270	270	270	270	270	270	270	-
			差	-	-	-	-	-	-	-	-
路盤 幅	W4	－５０	設計値	750	750	750	750	500	500	500	
			実測値	750	760	810	760	500	530	500	
			差	-	10	60	10	-	30	-	-
仮ＡＳ舗装	H6										
			天高	-	-	-	-	-	-	-	
仮AS舗装 厚さ	H5-H6	設計以上	設計値	30	30	30	30	30	30	30	
			実測値	30	30	30	30	30	30	30	-
			差	-	-	-	-	-	-	-	-

＊基準高から測定。

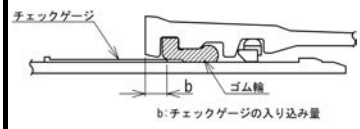
標準断面図別紙添付

GX形継手 チェックシート(直管・P-Link)

工事名	
図面No.・測点	
呼び径	

		配管工

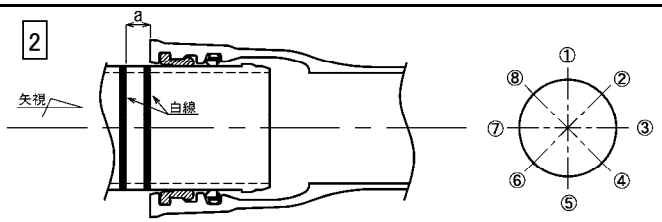
1 直管



b寸法の合格範囲

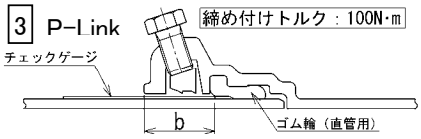
呼び径	合格範囲(mm)
75	8～18
100	8～18
150	11～21
200	11～21
250	11～21
300	14～24

2



3 P-Link

締め付けトルク：100N・m

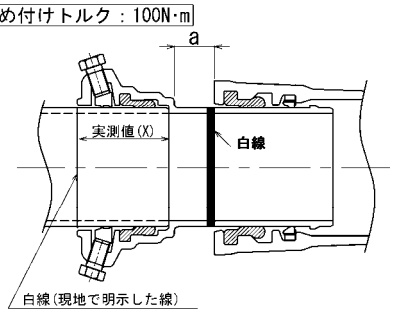


b寸法の合格範囲

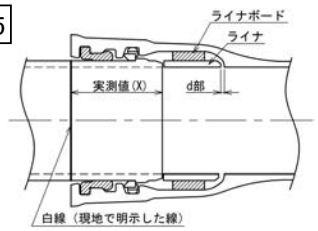
呼び径	合格範囲(mm)
75	54～63
100	57～66
150	57～66
200	63～72
250	63～72
300	70～80

締め付けトルク：100N・m

4



5



管 No.								
管の種類								
略図／ライナ								

継手 No.								—
挿し口突部の有無								—
清掃								—
滑剤								—
挿し口の挿入量の明示								4 5
受口溝(ロックリング)の確認								—
爪、押しボルトの確認(P-Link)								—
受口端面～ゴム輪間隔(b)※1	全周チェック							
	①							1
	②							
	③							3
	④							
	⑤							
	⑥							
	⑦							
	⑧							
受口端面～白線間隔(a)	①							2
	③							
	⑤							4
	⑦							
押しボルト	本数							4
	トルク確認							
ライナの位置確認(d部)※2								5
マーキング(白線)位置の確認※3								
判定								—

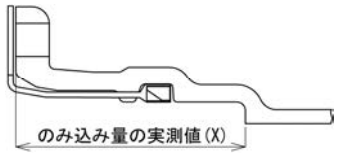
判定基準
※1 受口端面～ゴム輪間隔(b)が表に示す合格範囲内であること。また、曲げ接合してチェックゲージがゴム輪位置まで挿入できない場合は、チェックできなかったことを記載する。
※2 ライナが受口奥部に当たっていることを確認する。
※3 接合直後にマーキング(白線)位置が全周にわたり受口端面の位置にあるか確認する。

GX形継手 チェックシート(異形管・G-Link)

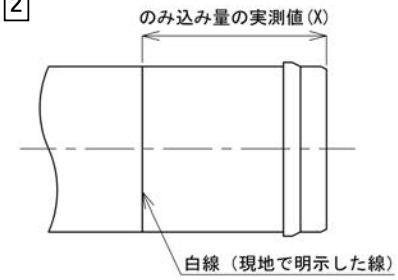
工事名	
図面No.・測点	
呼び径	

		配管工

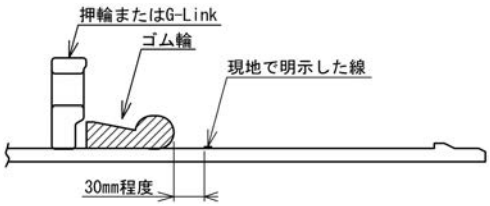
1



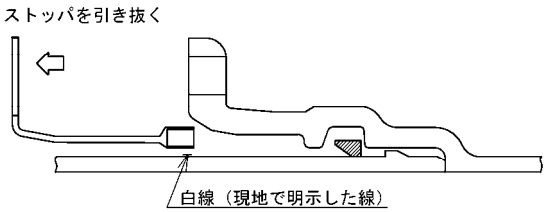
2



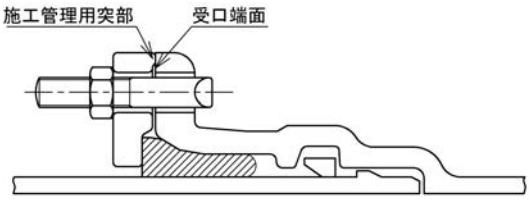
3



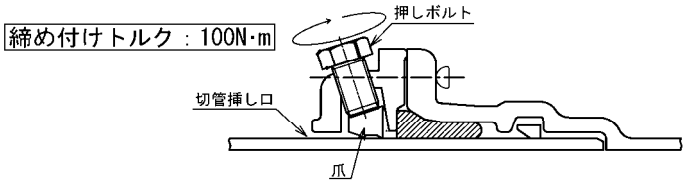
4



5



6 G-Linkを使用する場合



管　No.								
管の種類								
略図								

継　手　No.								—
挿し口突部の有無 注)								—
清　　掃								—
滑　　剤								—
挿し口の挿入量の明示								1 2
爪、押しボルトの確認(G-Link)								
ゴム輪、押輪またはG-Linkの確認								3
ストッパ、ロックリングの確認								4
ボルト・ナット	本数							5
受口端面～施工管理用突部の隙間 ※	箇所数							5
	隙間ゲージ確認							
押しボルト	本数							6
	トルク確認							
判　　定								—

判定基準　※　受口端面と押輪またはG-Linkの施工管理用突部との間に0.5mm以上の隙間がないこと。

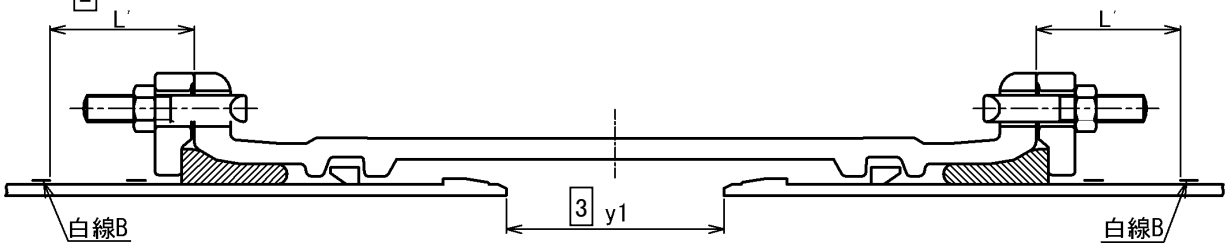
注) 挿し口突部の無い挿し口を異形管受口と接合する場合は、G-Linkを使用すること。

GX形継手 継ぎ輪チェックシート

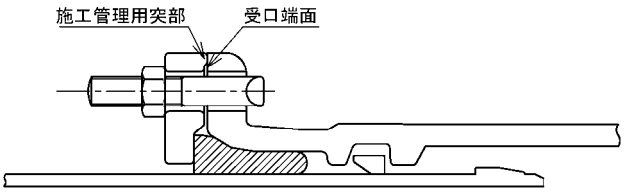
工事名	
図面No.・測点	
呼び径	

		配管工

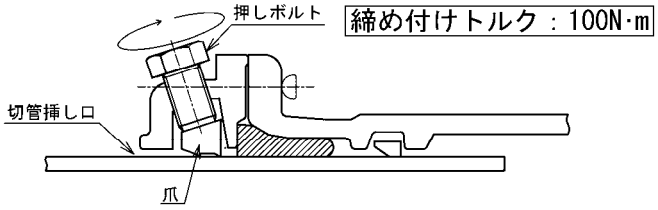
2



4

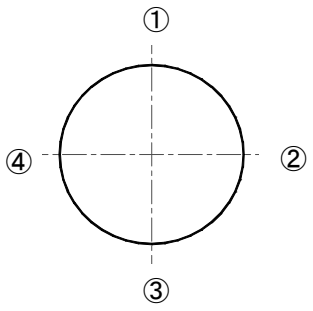


5 G-Linkを使用する場合



管　No.				
管の種類				
略図				

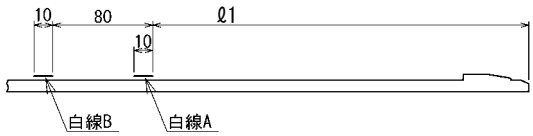
継　手　No.				—
挿し口突部の有無 注1)				—
清　　掃				—
滑　　剤				—
切管挿し口の白線Bの明示				1
ゴム輪、押輪またはG-LINKの確認				—
爪、押しボルトの確認(G-Link)				—
ストッパ、ロックリングの確認				—
受口端面～白線間隔（L'） 注2)	①			2
	②			
	③			
	④			
両挿し口端の間隔(y1) 注2)	①			3
	②			
	③			
	④			
ボルト・ナット	本数			4
受口端面～施工管理用突部の隙間 ※	箇所数			4
	隙間ゲージ確認			
押しボルト	本数			5
	トルク確認			
判　　定				



単位mm

呼び径	ℓ1
75	160
100	165
150	185
200	195
250	195
300	225

1



（i）一方から順次配管していく場合

単位mm

呼び径	L'
75	90
100	95
150	110
200	120
250	120
300	135

（ii）せめ配管の場合

単位mm

呼び径	y1
75	190
100	200
150	240
200	250
250	250
300	300

判定基準　※　受口端面と押輪またはG-Linkの施工管理用突部との間に0.5mm以上の隙間がないこと。

注1) 挿し口突部の無い挿し口を異形管受口と接合する場合は、G-Linkを使用すること。

注2) 一方から順次配管していく場合にはL'寸法、せめ配管の場合はy1寸法を記入すること。

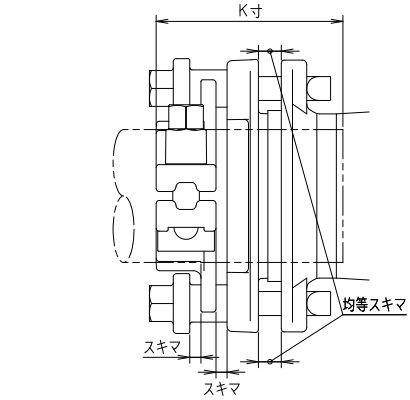
豊川市認証品離脱防止異種管継手
施工手順チェックシート

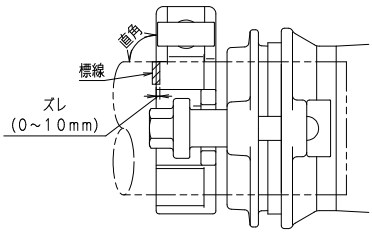
【様式第10その1】

施工日　　年　　月　　日

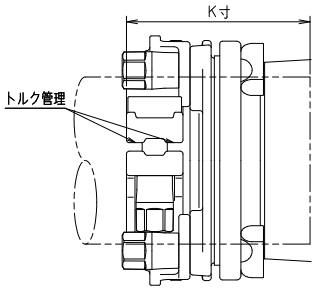
工事名				施工者
工区				
管種				
配管図No.				

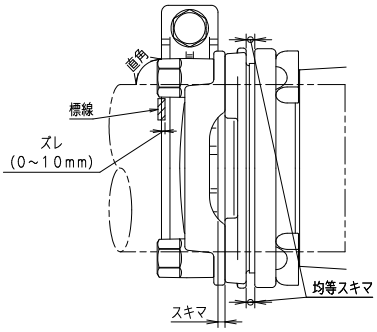
呼び径 40 ～ 75





呼び径 100・150





パイプ挿入量(K 寸)

呼び径	K (mm) +10/−0
40	**90**
50	**110**
65	
75	**120**
100	**130**
150	**155**

※ **太字**:基準値

標準締付トルク表

呼び径	押輪 (N·m)	ストップリング (参考締付トルク N·m)	
		PD・VD	CP
40	20~**25**~ 30	**25**~30	
50	40~**50**~ 60	**50**~70	
65			
75	60~**70**~ 80	**60**~ 80	
100	70~**80**~ 90	**70**~ 90	
150	80~**90**~120	**120**~140	

※ **太字**:基準値

	チェック項目		名称										
			受口										
			呼び径										
			管種										
1	清掃, 管端のカエリ除去												
2	管端防食処理 (CP/PD・VD 鋼管)												
3	管に標線記入 K 寸(mm)												
4	標線の位置 (押輪とｽﾄｯﾌﾟﾘﾝｸﾞが接した状態)												
5	SR締付	ボルト本数											
		ｽﾄｯﾌﾟﾘﾝｸﾞ締付ﾄﾙｸ(N・m) (押輪とｽﾄｯﾌﾟﾘﾝｸﾞが 接した状態にて)											
6	押輪締付	ﾎﾞﾙﾄ本数											
		押輪締付ﾄﾙｸ (N・m)											
7	標線とｽﾄｯﾌﾟﾘﾝｸﾞ端面とのｽﾞﾚ (0～10mm) ※ｽﾄｯﾌﾟﾘﾝｸﾞ内側へのｽﾞﾚ												
8	ｽﾄｯﾌﾟﾘﾝｸﾞのツメ部の (両側スキマ有り)												
9	ｽﾄｯﾌﾟﾘﾝｸﾞと管軸が垂直である事												
判定 (合格○, 不可×)													

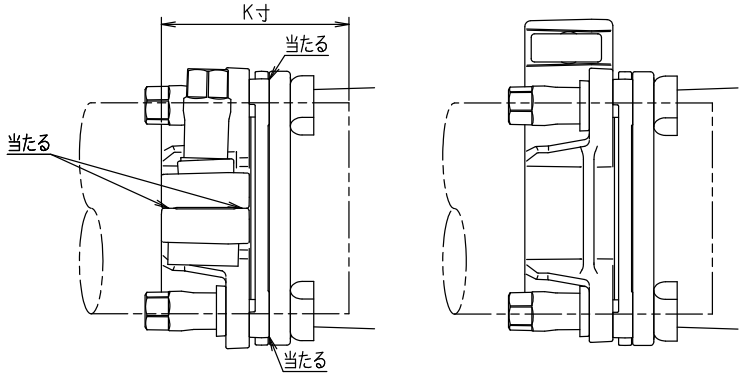
注)施工は、スッポン MD ジョイント PD・VD 鋼管、CP 用施工手順を遵守のこと。

豊川市認証品離脱防止異種管継手
施工手順チェックシートφ100～200

【様式第10その2】

施工日　　年　　月　　日

工事名				施工者
工区				
管種				
配管図No.				



パイプ挿入量(K 寸)

呼び径	K (mm)	
	継手	異形管
100	**135** $^{+10}_{-0}$	**135** $^{+25}_{-0}$
150	**160** $^{+10}_{-0}$	**160** $^{+25}_{-0}$
200	**200** $^{+10}_{-0}$	**200** $^{+25}_{-0}$

※ **太字**:基準値

表 1　押リング仮固定時本体との参考スキマ

呼び径	参考スキマ
100	7 ～ 8 mm 程度
150・200	8 ～10 mm 程度

標準締付トルク表

呼び径	押リング (N·m)		ストップリング (参考締付トルク N·m)	
100	**当て締め**	(50)	**当て締め**	(50)
150		(50)		(70)
200		(60)		(80)

※ **太字**:基準値

	チェック項目		名称										
			受口										
			呼び径										
			管種										
1	清掃，管端のｶｴﾘ除去												
2	管に標線記入 K 寸(mm)												
3	押ﾘﾝｸﾞ仮固定時 スキマを確保したか (表 1 参照)												
4	標線の位置確認 (押輪とｽﾄｯﾌﾟﾘﾝｸﾞが接した状態)												
5	開放ナットを外したか												
6	ｽﾄｯﾌﾟﾘﾝｸﾞ締付時 押リング締付ボルトが緩んで いることを確認したか												
7	SR 締付	ﾎﾞﾙﾄ本数											
		ｽﾄｯﾌﾟﾘﾝｸﾞ締付 (先端が当たる)											
8	押リング締付	ﾎﾞﾙﾄ本数											
		押リング締付 (本体に当たる)											
9	標線とｽﾄｯﾌﾟﾘﾝｸﾞ端面とのｽﾞﾚ 継手 : 0～10mm 異形管 : 0～25mm ※ｽﾄｯﾌﾟﾘﾝｸﾞ内側へのｽﾞﾚ												
判定 (合格○，不可×)													

注)施工は、スッポン MP ジョイント 100～200 施工手順を遵守のこと。

160616

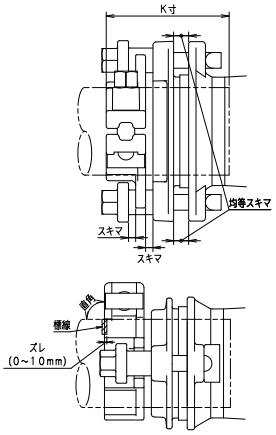
豊川市認証品離脱防止異種管継手
施工手順チェックシートφ40～150

【様式第10その3】

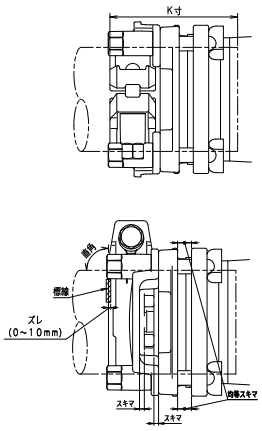
施工日　　年　　月　　日

工事名				施工者
工区				
管種				
配管図No.				

呼び径　40 ～ 75



呼び径　100 ～ 150



パイプ挿入量(K寸)

呼び径	K (mm) +10/−0	
	継手	異形管
40	**90**	**105**
50	**120**	**135**
65		
75	**125**	**145**
100	**140**	**165**
125	**145**	**170**
150	**155**	**185**

標準締付トルク表

管種	VP			鋼管・VH		VU			VT		
呼び径	押輪 (N·m)	ストップリング (参考締付トルクN·m)		押輪 (N·m)	ストップリング	押輪 (N·m)	ストップリング (参考締付トルクN·m)		押輪 (N·m)	ストップリング (参考締付トルクN·m)	
40	20~**25**~30	当て締め	(25)	20~**25**~30	**25**~ 30	−	−		−	−	
50	35~**40**~60		(40)	35~**40**~60	**50**~ 70	10~**15**~20	**先端スキマ 1.5mm**	(20)	35~**40**~60	当て締め	(60)
65						−	−				
75						30~**40**~60	**先端スキマ 1.5mm**	(20)			(80)
100	40~**50**~60		(50)	40~**50**~60	**60**~ 80	40~**50**~60	**当て締め**	(25)	40~**50**~60		
125	40~**60**~70		(60)	40~**70**~80	**80**~100	40~**60**~70		(60)	40~**60**~70		**80**~100
150											

太字:基準値

	チェック項目										
		名称									
		受口									
		呼び径									
		管種									
1	清掃，管端のｶｴﾘ除去										
2	管に標線記入　K寸(mm)										
3	標線の位置 (押輪とｽﾄｯﾌﾟﾘﾝｸﾞが接した状態)										
4	SR締付	ﾎﾞﾙﾄ本数									
		ｽﾄｯﾌﾟﾘﾝｸﾞ締付ﾄﾙｸ(N·m) (VP·VU(100~150)·VT(50~125)の場合は、先端が当たるまで締め付ける) (押輪とｽﾄｯﾌﾟﾘﾝｸﾞが接した状態にて)									
5	押輪締付	ﾎﾞﾙﾄ本数									
		押輪締付ﾄﾙｸ　(N·m)									
6	押輪と本体の均等ｽｷﾏ										
7	標線とｽﾄｯﾌﾟﾘﾝｸﾞ端面とのｽﾞﾚ (0～10mm) ※ｽﾄｯﾌﾟﾘﾝｸﾞ内側へのｽﾞﾚ										
8	ｽﾄｯﾌﾟﾘﾝｸﾞのﾂﾒ部 両側ｽｷﾏ有り										
判定 (合格○，不可×)											

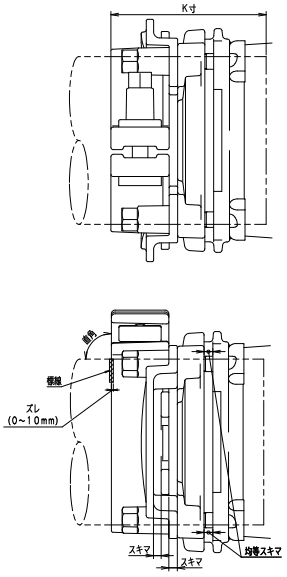
豊川市認証品離脱防止異種管継手
施工手順チェックシートφ200～300

【様式第10その4】

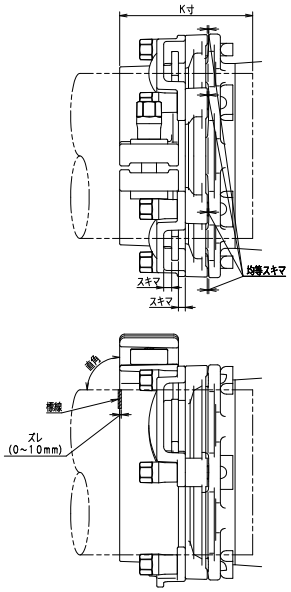
施工日　　年　　月　　日

工事名				施工者
工区				
管種				
配管図No.				

呼び径 200



呼び径 250・300



パイプ挿入量(K 寸)

呼び径	K (mm) ＋10/－0	
	継手	異形管
200	**185**	**205**
250	**215**	**240**
300	**225**	**250**

標準締付トルク表

呼び径	押輪 (N･m)		ストップリング (参考締付トルク N･m)								
	VP･VH･VU･鋼管	VT	VP		VH	VU		VT	鋼管		
200	85~**100**~120	85~**100**~120	当て締め	(100)	**110**~130	当て締め	(100)	**120**~140	**150**~170		
250				(160)	**170**~200			**150**~170	**170**~200		
300		－			**150**~170			－			

太字:基準値

	チェック項目										
		名称									
		受口									
		呼び径									
		管種									
1	清掃，管端のｶｴﾘ除去										
2	管に標線記入　K 寸(mm)										
3	標線の位置 (押輪とｽﾄｯﾌﾟﾘﾝｸﾞが接した状態)										
4	SR 締付	ﾎﾞﾙﾄ本数									
		ｽﾄｯﾌﾟﾘﾝｸﾞ締付ﾄﾙｸ(N･m) (VP･VU の場合は、先端が当たるまで締め付ける) (押輪とｽﾄｯﾌﾟﾘﾝｸﾞが接した状態にて)									
5	押輪締付	ﾎﾞﾙﾄ本数									
		押輪締付ﾄﾙｸ　(N･m)									
6	押輪と本体の均等ｽｷﾏ										
7	標線とｽﾄｯﾌﾟﾘﾝｸﾞ端面とのｽﾞﾚ (0～10mm) ※ｽﾄｯﾌﾟﾘﾝｸﾞ内側へのｽﾞﾚ										
8	ｽﾄｯﾌﾟﾘﾝｸﾞのﾂﾒ部 両側ｽｷﾏ有り										
判定 (合格○，不可×)											

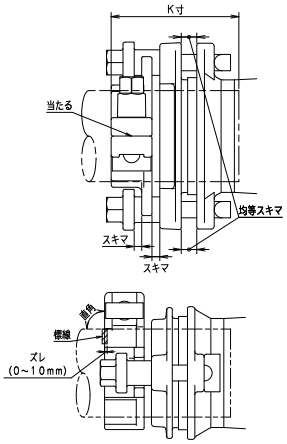
豊川市認証品離脱防止異種管継手
ポリ管(JIS)・SUS 管用 40～200
施工手順チェックシート

【様式第10その5】

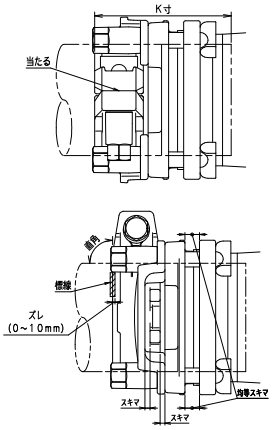
施工日　　年　　月　　日

工事名				施工者
工区				
管種				
配管図No.				

呼び径　40 ～ 75



呼び径　100 ～ 200



パイプ挿入量(K 寸)

呼び径	K (mm) +10/−0	
	継手	異形管
40	**90**	**105**
50	**120**	**135**
65		
75	**125**	**145**
100	**140**	**165**
125	**145**	**170**
150	**155**	**185**
200	**185**	**205**

標準締付トルク表

管種	ポリ管(JIS)		VP			鋼管		SUS	
呼び径	押輪 (N·m)	ストップリング	押輪 (N·m)	ストップリング (参考締付トルクN·m)		押輪 (N·m)	ストップリング (参考締付トルクN·m)	押輪 (N·m)	ストップリング (参考締付トルクN·m)
40	**25**~30	当て締め	20~ **25**~ 30	当て締め	(25)	20~ **25**~ 30	**25**~ 30	20~ **25**~ 30	**25**~ 30
50	**50**~60		35~ **40**~ 60		(40)	35~ **40**~ 60	**50**~ 70	35~ **40**~ 60	**75**~ 90
65									
75									
100			40~ **50**~ 60		(50)	40~ **50**~ 60	**60**~ 80	40~ **50**~ 60	**85**~100
125	**60**~70		40~ **60**~ 70		(60)	50~ **70**~ 80	**80**~100	50~ **70**~ 80	**110**~130
150									
200	**80**~90		85~**100**~120		(100)	85~**100**~120	**150**~170	85~**100**~120	**200**~220

太字:基準値

	チェック項目		名称										
			受口										
			呼び径										
			管種										
1	清掃，管端のｶｴﾘ除去												
2	管に標線記入 K 寸(mm)												
3	標線の位置 (押輪とｽﾄｯﾌﾟﾘﾝｸﾞが接した状態)												
4	SR締付	ﾎﾞﾙﾄ本数											
		ｽﾄｯﾌﾟﾘﾝｸﾞ締付ﾄﾙｸ(N･m) (ポリ管(JIS)・VP の場合は、先端が当たるまで締め付ける) (押輪とｽﾄｯﾌﾟﾘﾝｸﾞが接した状態にて)											
5	押輪締付	ﾎﾞﾙﾄ本数											
		押輪締付ﾄﾙｸ (N･m)											
6	押輪と本体の均等ｽｷﾏ												
7	標線とｽﾄｯﾌﾟﾘﾝｸﾞ端面とのｽﾞﾚ (0～10mm) ※ｽﾄｯﾌﾟﾘﾝｸﾞ内側へのｽﾞﾚ												
8	ｽﾄｯﾌﾟﾘﾝｸﾞのﾂﾒ部 両側ｽｷﾏ有り												
判定 (合格○，不可×)													

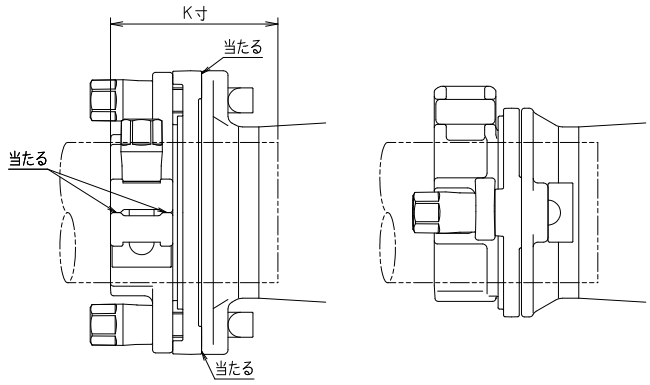
豊川市認証品離脱防止異種管継手
施工手順チェックシート

【様式第10その6】

施工日　　年　　月　　日

工事名				施工者
工区				
管種				
配管図No.				

呼び径　50 ・ 75



パイプ挿入量(K 寸)

呼び径	K (mm)	
	継手	異形管
50	**95** $^{+10}_{-0}$	**95** $^{+10}_{-0}$
75	**105** $^{+10}_{-0}$	**105** $^{+25}_{-0}$

※ **太字**:基準値

標準締付トルク表

呼び径	押リング (N·m)		ストップリング (参考締付トルク N·m)	
50	**当て締め**	(30)	**当て締め**	(35)
75		(35)		

※ **太字**:基準値

表 1　押リング仮固定時本体との参考スキマ

呼び径	参考スキマ
50・ 75	6 ～ 8 mm 程度

	チェック項目		名称										
			受口										
			呼び径										
			管種										
1	清掃, 管端のｶｴﾘ除去												
2	管に標線記入 K 寸(mm)												
3	押ﾘﾝｸﾞ仮固定時 スキマを確保したか (表 1 参照)												
4	標線の位置確認 (押輪とｽﾄｯﾌﾟﾘﾝｸﾞが接した状態)												
5	開放ナットを外したか												
6	SR 締付	ﾎﾞﾙﾄ本数											
		ｽﾄｯﾌﾟﾘﾝｸﾞ締付 (先端が当たる)											
7	押リング締付	ﾎﾞﾙﾄ本数											
		押リング締付 (本体に当たる)											
8	標線とｽﾄｯﾌﾟﾘﾝｸﾞ端面とのｽﾞﾚ 継手・異形管 50 : 0～10mm 異形管 75 : 0～25mm ※ｽﾄｯﾌﾟﾘﾝｸﾞ内側へのｽﾞﾚ												
判定 (合格○, 不可×)													

注)施工は、スッポン MP ジョイント 50・75 施工手順を遵守のこと。

160616